

## ワークシート ミュージアム編（中学生） 解答例

### Q1 縄文人のころ

(答え)

土器は、煮炊きや、貯蔵などのため。

土偶は、まつりや儀式を行うため。

石器は、動物や魚をとったりするため。

石器は、動物の肉を切ったりするため。 など

(解説)

縄文時代に土器が出現し、人々の生活は大きく変わりました。煮炊きを行うことが可能になったため、利用できる自然の恵みが多くなり、食生活が安定しました。

土偶は、乳房があるため女性を表現したものと推測されます。

### Q2 海の恵み

(答え)

マダラ。ブリ。マダイ。ニシン。サバ。ヒラメ。サメ。タコ。イカ。シャコ。など

(解説)

三内丸山遺跡から出土した魚の骨では、アジ、サバ、イワシなどのほか、サメやブリが多く出土しています。タコやイカの口器やシャコのあごが残っていたため、それらも食料として利用されていたようです。

釣針は、ほとんどが返しをもたない種類です。



三内丸山遺跡から出土した釣針

### Q3 森の恵み（猟の道具）

(答え)

大きな石器＝石槍（いしやり。せきそう。）

小さな石器＝石鏃（せきぞく。やじり。）

(解説)

おもに、石槍は槍として、石鏃は矢柄やがらの先につけられ弓矢として使われました。いずれ

も狩猟<sup>しゅりょう</sup>のために用いられ、わなと組み合わせてウサギをとるなど、獲物によって方法を変えていたことが推測されます。

#### Q4 森の恵み

(答え)

クリ

(解説)

科学的な分析から、縄文人の食料の約8割は植物質のものと考えられており、その中でもクリは多く食べられていたようです。クリは、DNA分析を行った結果、栽培の可能性の高いことが分かりました。

#### Q5 地層の重なり

(答え)

土。焼け土。土器。炭。土。骨。 など

※黒く見えるのは炭（炭化物）

※白く見えるのは骨

(解説)

盛土<sup>もりど</sup>は、大量の土砂とともにさまざまな遺物が捨てられた場所です。地層断面には、ローム土（黄色の土）や赤く変色した焼け土、炭や焼けた骨なども見られます。ローム土は住居や道などのムラを作る際に掘られた土と考えられ、最もよく見られます。

#### Q6 円筒土器<sup>えんとうどき</sup>

(答え)

- ・新しくなると口が開き、飾りが多く付けられる。
- ・前期はおもに縄で文様がつけられるが、中期になると粘土紐を使うようになる。
- ・前期は土器が黒っぽいですが、中期になると茶色っぽく明るい色調になる。
- ・前期は上下に長細い形だが、中期になるとバケツのような形になる。 など

(解説)

円筒土器は、筒のような独特の形からつけられた名前で、三内丸山遺跡の最盛期に使用されていた土器です。前期・中期とも青森県を中心として北海道南西部から岩手・秋田県北部まで分布していました。前期は長細い筒形で、おもに縄文のみで文様が施され、粘土には植物の繊維が混ぜられました。中期は口縁部が開き、縄文と粘土紐で装飾が施されるようになり、粘土には繊維ではなく、砂が混ぜられました。ほとんどが煮たきに使われていました。

Q7 盛土<sup>もりど</sup>

(答え)

土偶<sup>どくわう</sup>。ミニチュア土器。土製装身具。土製ペンダント。石製ペンダント。 など

(解説)

盛土からは土器や石器のほかに、土偶やミニチュア土器など、まつりに関連する遺物も多く出土します。土偶、ミニチュア土器、装身具は、盛土内の同じ場所からまとまって出土する傾向があります。

Q8 竪穴住居

(答え)

お父さん＝狩りの道具の手入れ

お母さん＝料理

おばあさん＝編み物<sup>あみもの</sup>（編布<sup>あみぬい</sup>という布を編んでいます）

子ども＝おばあさんの編み物を見ている

など

(解説)

竪穴住居は寝起きをするほかに、料理や道具の手入れ、編み物などのさまざまな作業を行う生活の中心の場でもありました。時期によって、形や作り方が変化したことが考えられます。

Q9 墓（子どもの墓）

(答え)

石 など

(解説)

子どもの墓には土器が使われ、中から握り拳くらいの大きさの石が出土することがあります。すり石などに使われた石が多く、入れる意味としては、魂を封じ込めるため、子どもに抱かせるためなどの理由が考えられます。

Q10 広域なネットワーク

(答え)

黒曜石<sup>こくようせき</sup>＝北海道（十勝<sup>としかち</sup>）、新潟県（佐渡）、山形県、長野県 など

ヒスイ＝新潟県・富山県境（糸魚川<sup>いといがわ</sup>）

アスファルト＝秋田県（不動沢<sup>ふどうさわ</sup>）

コハク＝岩手県（久慈<sup>くじ</sup>）

石斧<sup>せきふ</sup>の素材＝北海道、青森県（額平川<sup>ぬかひら</sup>、八戸市周辺）

※都道府県名でも地域名でも正解とする。

(解説)

三内丸山遺跡には黒曜石、ヒスイ、コハク、アスファルトなど、北海道や日本海側を中心とした交易が行われていました。日本海側は、資源の産地が多かったことや、海流を利用した舟による移動に適していたことなどが理由と考えられます。